



オアシス

文責：学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2023年4月16日発行 第60号

春になると「春霞」（はるがすみ）という季語がいかに日本情緒を漂わせますが、今日（4/12）の霞はどうも黄砂現象のようです…。中国内陸部のサハラ砂漠やゴビ砂漠から飛来するのだといひます…。ただの砂粒ならまだしも、飛来途中に工業地帯の浮遊物や花粉、ウィルスなどを付着させながら日本上空に到達するのだと報じていました。これは、アレルギーの元であり、人体にも悪影響は免れそうもありません…。また、黄砂現象の拡大は、気候温暖化の影響が大きくかかわっていることらしいので、人々の生活の営みに考えさせられることが多いようです。

◎ ファミリーコンサートで締めくくり！

令和4年度の各講座の集大成として「第17回ファミリーコンサート」が、このほど大社文化プレイスうらら館にて開催されました。

プログラムは、第1部が子供中心のステージで、「幼児科」に始まり、「本科」のキッズアンサンブル&キッズコーラスが続き、最後はベーシックオーケストラ&弦楽器入門の発表でした。第2部は、大人中心のステージに代わり、「別科」の邦楽合奏とコーラス・レパートリーの発表となりました。

「本科」のジュニアコーラスとジュニアオーケストラは、前週に演奏旅行（川本町）へ出かけたため、今回の出演はありませんでした。

プログラム順の様子をお伝えすると、幼児科の発表は、親子発表が恒例となっており、お子様の手を引いて保護者の皆さんがステージに登場。その姿は、緊張感が漂うと共に微笑ましい光景に思わずエールを送りたくなりました。親子でつくるステージのエンディングには、これも恒例となっている、本アカデミー名誉学長“米山道雄”氏の作曲による「ヤマタノオロチ」です。長年歌い継がれてきたこの曲が流れるとより親しみが沸き、会場からも口ずさむ様子がかがえました。

本科のステージは、キッズアンサンブル&キッズコーラスからです。少ない人数（8人）ですが、広いステージを動き回り元気いっばいに発表していました。普段は、楽譜の読み書きや鑑賞講座を中心に楽しく学んでいますが、自分たちで考えた歌詞づくりにも挑戦し、会場の皆様にも参加していただけるよう手拍子を積極的に誘導していました。

本科の続きは、ベーシックオーケストラ&弦楽器入門です。ベーシックオーケストラ（BO）クラスは、入門クラスで初心者中心に



幼児科〈うたなかま〉



本科〈キッズアンサンブル & キッズコーラス〉



本科〈ベーシックオーケストラ & 弦楽器入門〉

裏面へ

基礎を学んだ後、他の楽器と合わせることを学んでいます。弦楽器入門クラスは、親子で学ぶことができ、先日のコンサートでも保護者の奮闘ぶりも見逃せませんでした。オーケストラの弦楽器編成では、ピオラの存在が大きく影響しますが、子供には楽器のサイズが大きく適切でないため、3rdバイオリンとして参加しました。

小さな子供が一生懸命演奏する姿は、将来のジュニアオーケストラへの道を想像するとたくましい限りでした。

第2部は、別科の発表で邦楽合奏から始まりました。邦楽といっても多くの種類がありますが、本アカデミーでは「箏」【通称は琴】が中心の講座です。邦楽には様々な流派があり考え方や奏法が違うことがあります。その壁を乗り越えるべく、指揮者を立てて合奏の醍醐味を味わうことを大切に日々の講座に取り組んでいます。本番のステージでは、指揮の振りに息を合わせ、緊張感の中にも透明感のある美しい響きがホール全体を覆っていました。

次は、出雲フィルチェンバーオーケストラのメンバーによる iPhil アンサンブルです。普段の各講座を受け持つ指導者によるアンサンブルを特別に編成しました。さすがに音の立ち上がりや奏法の技術の高さを余すところなく発揮され、会場を魅了していました。また、演奏する楽しみが伝わり、学んでいる子供たちには将来への指標となったことと思います。

最後は、コーラス・レパトリーのステージです。合唱を通して他の人と心を通わせながら学びあい、歌うことの喜びを体感できる、まさに生涯教育がピッタリの講座といえます。普段は混声合唱が主体ですが、今回は男声コーラスから始まりました。ボーイズ・ユース・クワイアのメンバーも加わり、男声特有の低音で線の太い響きで力強く歌いあげていました。次に女声加わり混声合唱が始まりました。混声の魅力は、女声と男声がバランスよく融合すると響きがさらに豊かになりますが、先日のステージではそれが再現出来ていて合唱の魅力を十分に伝えていました。また、曲目も中学校の教科書にも載っている親しみのある合唱曲で、会場の皆様にも親近感が伝わったことと思います。

フィナーレは、出雲フィルチェンバーオーケストラのメンバーが加わり、春のコンサートに最も相応しい“滝廉太郎”作曲の「花」を会場いっぱいに歌いあげて締めくくりました。

コンサート終了後には終演式（本科）が行われ、コンサートを振り返って代表者や関係者が感想を述べ、課題を確認しながらも次年度へ向けて、意欲的な取り組みができるよう決意を新たにしたところです。また、コーラス・レパトリーのメンバーが、エントランスにボランティアで生け花を添えていただいたことも感謝の気持ちでいっぱいです。

